

北海道十勝地方におけるクマゲラの分布¹

日本野鳥の会十勝支部²

はじめに

クマゲラ *Dryocopus martius* は、北海道では留鳥で、これまでも各地で記録されている。しかし、1978年に行われた第2回自然環境保全基礎調査の動物分布調査報告(鳥類)(環境庁 1979)でもクマゲラの分布はとりあげられず、よく知られていない。クマゲラは十勝地方にも生息しているが、分布についてこれまでまとめられたものはない。北海道教育庁(1977)は、1970、1971両年にクマゲラの調査を行ったが、調査地は大雪山系の上川地方だけで、十勝地方では調査を行わなかった。

十勝支部(1983)は十勝地方のオオワシとオジロワシの分布について報告したが、今回の報告はこれにひきつずき、十勝地方の稀少鳥類の分布に関する第2報である。

今回の報告に用いた記録は、主として支部会員によるもので、記録の提供者は次のとおりである：猪股博之、川辺百樹、高嶋純、竹内正人、藤巻裕蔵、三木昇、和田隆資、山田由紀江。この他に阿部(1975)、藤巻ほか(1979)、芳賀(1976、1979、1983、1984 a、1984 b)、釧路市立郷土博物館々報 No204、207、帯広畜産大学自然探査会誌「どんかち」からの記録も用いた。

結果と考察

1. 十勝地方の森林の概要

クマゲラは森林性の鳥類なので、まず十勝地方における生息環境としての森林の概要について述べる。十勝地方の面積は1,083km²で、その65.6%が森林である。その内訳は、天然林67.9%、人口林24.9%、それ以外は無立木地とその他である(北海道 1984)。森林の大部分は、北部の大雪山系、西部の日高山脈、北東部の阿寒地域、東部の白糠丘陵にある(Fig. 1a: 北海道造林振興協会発行の「北海道の森林」1985年版による)。そのほか平野部の中央部では、居辺山を含む上士幌町と本別町、音更町と池田町の町界の丘陵(居辺台地)、忠類村、豊頃町、大樹町の町界の豊頃丘陵にも森林がある。平野部の大部分は市街地、住宅地、農耕地となり、樹木で被われているのは農耕地防風林や残存林などだけで、クマゲラの生息できるような環境はほとんどない。

森林は、平野部中央の丘陵ではミズナラやカシワなどを主要樹種とする落葉広葉樹林またはカラマツ人工林である。山麓部はイタヤカエデなどを主要樹種とする落葉広葉樹林やカラマツ人工林が多いが、標高が高くなると針広混交林となり、次第に針葉樹の割合が高くなる。そして標高1200-1300m以上でダケカンバ帯となり、1400-1600m以上ではハイ

1985年10月15日受理

1. 執筆者：藤巻裕蔵、〒080 帯広市稲田町西2線13
2. 〒080 帯広市稲田町帯広畜産大学野生動物管理理学研究室。

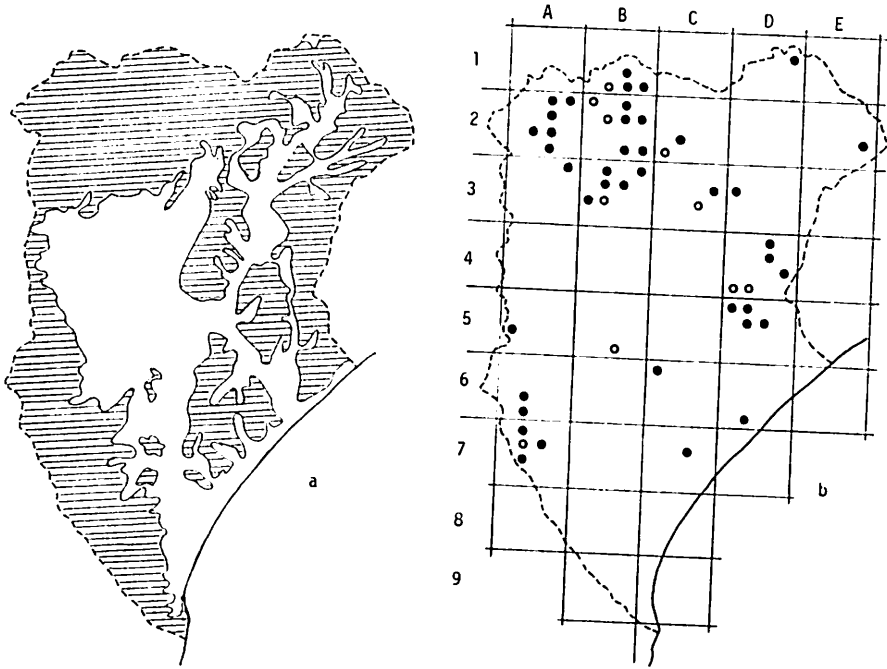


図1. 十勝地方における森林分布(a)とクマゲラの分布(b). 黒丸: 繁殖期, 白丸: 非繁殖期.

Fig. 1. Distribution of wooded area (a) and *Dryocopus martius* (b) in Tokachi District, Hokkaido. Black circle: breeding season, White circle: non-breeding season.

マツ帯となる。

2. 十勝地方におけるクマゲラの分布

ここで用いたクマゲラの観察記録は、1964-1985年に得られたものである。5万分の1の地形図を、縦、横それぞれ4等分して、計16区分し、各区画ごとにクマゲラの記録を图示した (Fig. 1b)。

これまで繁殖期 (3月下旬から6月, 有沢 (1974) による) にクマゲラが観察されているのは、札内川上流部を中心とする日高山脈中央部 (Fig. 1bのA 6, A 7), 十勝川上流部, 音更川上流部, 然別湖周辺を含む大雪山系南部 (A 2, B 1, B 2, B 3), 白糠丘陵の幕別町古舞 (C 6), 大樹町生花 (C 7), 豊頃町長節 (D 6) である。標高では、低い所では100m (浦幌町留真: D 5, 豊頃町長節), 150m (幕別町古舞, 大樹町生花) や300m前後 (浦幌町瀬多来, 活平: D 5) から、上限は800~1,000m付近 (然別湖畔, 芽室岳: A 5) までの範囲である。森林のタイプでは低標高の落葉広葉樹林帯から針広混交林帯上部までである。このうち、繁殖が確認されているのは、十勝幌尻岳ピリカベタヌ沢 (A 6), 然別湖畔, 上士幌町幌加 (B 2) だけである。北海道教育庁 (1977) の調査結果によると、大雪山系の上川側では、主として標高600mの針広混交林帯から800m付近の針葉樹林への移行帯でよく観察されたという。しかし、十勝では、上述の地域の他にも標高400m

付近（新得町近別：A 2，上岩松：A 3，札内川上流：A 7）での記録も少なくなく，また落葉広葉樹林（足寄町九州大学演習林：C 3，D 3，幕別町古舞，大樹町生花）での記録もある。

非繁殖期の記録しかない区画は，Fig. 1bでは白丸で示してある。この時期にもクマゲラは上述の山地の森林で観察されているが，記録はあまり多くない。それは，冬季には山地に入るのが夏にくらべて困難なためである。この他にも，非繁殖期に平野部の小さな林に稀に飛来することがある。このような例としては，いまのところ帯広市稲田（B 5）での記録があるだけである（1977年9月16日～11月3日，1979年9月21日）。

以上の観察記録は，一部の地域にかたまっているように見えるが，これは，この地域でよく調査が行われているからで，今後ほかの地域の森林帯でも調査が行われれば，クマゲラが記録される区画は増えると思われる。また，ここに用いた記録では，生息数が多いのか少ないのかについて述べることはできないが，クマゲラが山地の森林だけでなく，平野部の丘陵地帯の森林にも生息することは明らかである。

要 約

1. 1964-1985年に得られたクマゲラの観察記録に基づいて，北海道十勝地方におけるこの種の分布を明らかにした。
2. クマゲラは，繁殖期に平野部の丘陵の落葉広葉樹林，山地の落葉広葉樹林や針広混交林に生息する。
3. 標高では100-1000mの範囲に生息している。
4. クマゲラは，非繁殖期には繁殖期に生息していた森林のほか，稀に平野部の小面積の林に飛来することがある。

文 献

- 阿部永 1975. 十勝川流域における鳥獣調査報告. 大雪山系自然生態系総合調査（中間報告），101-113.
- 有沢浩 1974. 北国の森の動物記. 河出書房新社.
- 藤巻裕蔵・芳賀良一・小野山敬一 1979. 日高山系自然生態系総合調査報告（動物）. 日高山系自然生態系総合調査報告書（動物篇），57-88.
- 芳賀良一 1976. 十勝川水系上流地域上岩松ダム周辺部の自然環境. 3. 鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書. IV 上岩松ダム周辺部の自然環境，67-76.
- 芳賀良一 1979. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書 VII 富村発電所建設の事後生態調査（1978），131-154.
- 芳賀良一 1983. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書 IX 富村発電所建設の事後生態調査（1981），133-160.
- 芳賀良一 1984 a. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書 X 富村発電所建設の事後生態調査（1980），185-234.
- 芳賀良一 1984 b. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書 XIV 富村発電所建設の事後生態調査（1983），341-377.
- 北海道 1984. 昭和58年度北海道林業統計.

- 北海道教育庁 1977. エゾシマフクロウ, クマゲラ特別調査報告書.
環境庁 1979. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(鳥類)全国版.
釧路市立郷土博物館 1970. 探鳥会のあゆみ. 釧路市立郷土博物館々報 204: 4.
釧路市立郷土博物館 1970. 探鳥会の記録. 釧路市立郷土博物館報 207: 10.
日本野鳥の会十勝支部 1983. 北海道十勝地方におけるオジロワシとオオワシの分布. *Strix*
2: 53-58.

DISTRIBUTION OF *DRYOCOPUS MARTIUS* IN TOKACHI DISTRICT,
HOKKAIDO

TOKACHI CHAPTER, WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN

Distribution of *Dryocopus martius* was described based on sight records obtained from 1964 to 1985 in Tokachi District, Hokkaido. *Dryocopus martius* occurred in deciduous broad-leaved forests in low altitudes, and in forests of same type and mixed forests of deciduous broad-leaved and coniferous trees in mountainous areas, at 100 to 1,000m in altitudes. This species also came flying to forests in agricultural lands in non-breeding season.

Laboratory of Wildlife Resource Ecology, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Obihiro 080.